

## 輪ギク「飛驒黄金」の早生系統「飛系菊1号」の育成

【要約】輪ギク「飛驒黄金」より早生系統「飛系菊1号」を選抜した。5日ほど早生で、草丈がやや短い欠点を持つが、側枝数が少なく、花形が優れた系統である。

中山間農業研究所 試験研究部

【連絡先】0577-73-2029

飛驒地域農業改良普及センター

【連絡先】0577-33-1111 (266)

飛驒地域下呂農業改良普及センター

【連絡先】0576-52-1111 (254)

### 【背景・ねらい】

輪ギク「飛驒黄金」は、市場性が高く8月上旬の盆需要期に出荷できることから、予約相対取引を行い、価格安定を図っている。

生産者の経験から、摘心を5月1日までに行うことで、6月15日に花芽分化し、8月上旬に出荷できるが、地域により毎年遅れる圃場や、単価的に8月中旬より7月下旬の方が有利なため、既存系統より早生の系統が望まれている。

一方、「飛驒黄金」は栄養繁殖にも関わらず、20年以上栽培されているため、個体間の変異が認められたことから、早生系統を選抜した。

### 【成果の内容・特徴】

- 1 選抜は、2004年に収集した個体から2005年に一次選抜、また2006年に二次選抜し、「飛系菊1号」とした。2007年に三次選抜と合わせて、2006年に現地より収集した早生個体の二次選抜を行うと共に、「飛系菊1号」を現地供試し、総合的に「飛系菊1号」が優れていることを確認した。2008年には、再度「飛系菊1号」と他の選抜個体との比較と現地適応性を調査し、「飛系菊1号」が優れていることを確認した（図1）。
- 2 早晚性について、概ね5日程度早生である。産地全体は2007年が8月9日頃、2008年が8月3日頃と6日の差が認められるが、「飛系菊1号」は3日程度と年次変動が小さい特性を持つことが示唆された（表1、2）。
- 3 草丈がやや低く、節数も少ない（表1、2）。
- 4 側枝数は少なく、省力的な系統である（表1、2）。
- 5 花形は、花径が大きく、花弁数も多く、露心花の危険性が低く、花の日持ち性が高い（図2）。

### 【成果の活用面・留意点】

- 1 草丈がやや低いため、草丈確保に努める。

【具体的データ】

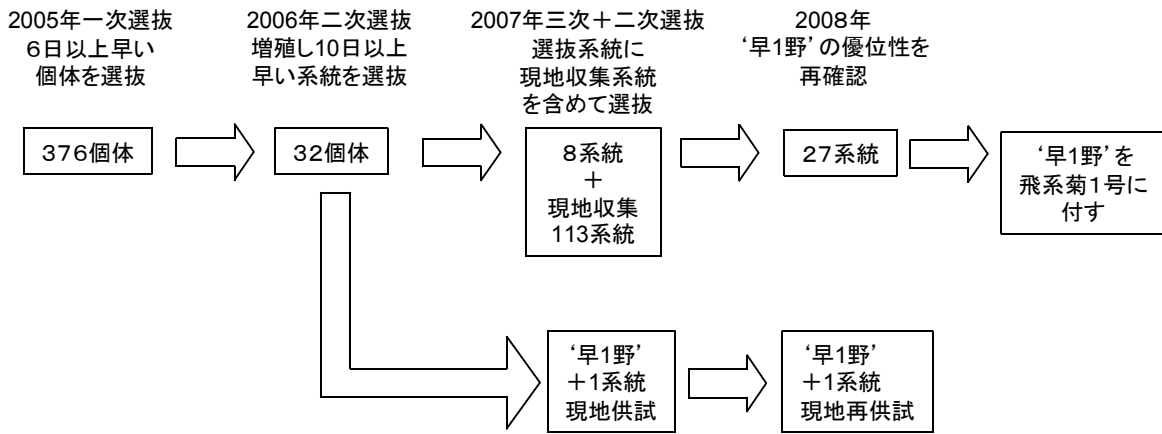


図1 選抜の経緯

表1 所内における‘飛系菊1号’の生育調査結果

調査年次	挿し穂日 (月日)	定植日 (月日)	摘心日 (月日)	収穫日 (月日)	草丈 (cm)	節数 (節)	側枝数 (節)	花首長 (cm)
2006年	3/23	4/10	4/13	7/11 (- 7)	84 (- 1)			3.0 (-0.6)
	4/10	4/26	5/1	7/20 (-13)	78 ( 2)			3.0 (-1.5)
2007年	3/20	4/5	4/18	7/24 (- 3)	68 (-10)	33 (- 3)	16 (- 3)	
	4/26	5/7	5/11	8/4 (- 7)	66 (- 0)	27 (- 1)	13 (- 6)	
2008年	4/5	4/19	4/26	7/16 (- 1)	82 ( 4)	31 ( 1)	16 (- 3)	2.7 ( 0.1)

( ) 内は、選抜集団の平均値 (2006年) または早生・晩生系統を除いたメリクロン系統 (2007, 8年) との差  
なお、メリクロン系統は10年ほど前に在来系統から優良株を選抜し、茎長培養した系統である。

表2 現地適応性試験における‘飛系菊1号’の生育調査結果

試験年次	栽培者	挿し穂日 (月日)	定植日 (月日)	摘心日 (月日)	出蕾日 (月日)	収穫日 (月日)	草丈 (cm)	節数 (節)	脇芽数 (節)	花首長 (cm)
2007年	高山(570m)	4/5	4/18	5/1	7/3 (- 2)	8/4 (- 8)	104 (- 3)	42 (- 6)	13 (- 5)	3.9 ( 0.6)
	下呂(430m)	4/14		4/28	6/29 (- 7)	8/5 (- 4)	83 ( 9)	41 ( 5)	11 (-15)	4.0 ( 0.0)
	国府(580m)	4/2	4/25	5/1	7/1 (- 8)	8/5 (- 3)	95 (- 6)	37 (- 2)	8 (- 9)	4.0 (-0.5)
2008年	高山(570m)	3/20	4/12	4/25		8/3 ( 2)	106 ( 6)	46 ( 4)	17 ( 8)	3.3 (-0.6)
	高山(570m)	4/10	4/26	5/6	7/4 ( 3)	8/3 ( 1)	85 ( 4)	37 (- 4)	19 (- 9)	3.2 ( 0.0)
	下呂(430m)	4/9		4/24	6/25 (- 3)	8/1 ( 0)	70 ( 1)	34 (- 2)	12 (- 5)	3.5 (-0.4)
	下呂(430m)	5/15		5/26	8/17 ( 1)	9/19 ( 0)	75 ( 1)	51 ( 0)	16 (-17)	1.5 ( 0.2)
	国府(580m)	3/22	4/18	4/28	6/25 (- 7)	8/1 (- 7)	95 (- 3)	40 ( 1)	16 (-11)	2.9 (-0.8)
	丹生川(700m)	4/14		4/14	6/27 (- 6)	8/1 (- 7)	97 ( 1)	41 (- 0)	15 (-10)	3.2 ( 1.0)

対照系統は、国府のみ在来系統、他はメリクロン系統



図2 ‘飛系菊1号’の開花状況

研究担当者：安江隆浩（中山間農研）、河合 智周（飛驒農改）、小島 拓也（下呂農改）